

## 国際保健規則に基づく我が国連絡窓口の平成 27 年度の活動内容について

### 1. WHO との間の情報共有

WHO のイベント発生情報 (EIS: Event Information Site) ウェブサイトに掲載された情報については随時国内関係者に伝達。平成 27 年度においては、昨年 7 月末～8 月に山口県山口市で行われた世界スカウトジャンボリーから帰国後に英国人、スウェーデン人から発生した髄膜炎菌性髄膜炎について、英国、スウェーデンからの報告にあわせ、日本国内の対応状況について日本から WHO に報告した。また、2 月 25 日に確認されたジカウイルス感染症患者輸入例について、WHO に報告した。

### 2. 他の IHR 参加国連絡窓口 (NFP) との間の個別情報交換

結核、麻疹等の感染症患者の国際渡航や検疫体制に関する照会等に関し、12 件 (平成 28 年 3 月 2 日時点) の情報交換を実施。

### 3. APSED 会合への出席

2005 年の IHR 改訂を受けて、IHR のコアとなる対応能力を達成するために WHO 西太平洋地域事務局 (WPRO) 加盟諸国のロードマップとして、アジア太平洋・新興感染症対処戦略 (APSED : Asia Pacific Strategy for Emerging Diseases) を作成。その後、パンデミック・インフルエンザの知見を踏まえ、2010 年 10 月に改訂。

平成 27 年 7 月 21 日～23 日にフィリピン・マニラにて、国際保健規則 (IHR) の国内連絡窓口 (NFP) の担当者が出席する APSED 会合に参加し、各国および WPRO との意見交換を実施。会合では、平成 26 年の日本におけるデング熱の発生とその対応について発表を行った。

### 4. 訓練への参加

毎年 WPRO が加盟国の連絡窓口 (NFP) を対象として行っている IHR コミュニケーション訓練 (IHR Crystal Exercise) に今年も参加。今年度は、平成 27 年 12 月 4 日に開催され、WPRO 内の仮想国において鳥インフルエンザが発生し、それが各国内に流入したとのシナリオの下、WHO との連絡調整や WHO への IHR 通報を行う訓練が行われた。